

# あおい通信 第65号

第65号平成22年10月1日  
リハビリテーション  
デイサービス葵・編集委員会  
練馬区東大泉3-17-5  
カトビル3F  
電話 03-3978-0919



↑大都会のオアシス「浜離宮庭園」  
写真・文 七海邦夫

## 世評・時評

民主党は昨年九月政権交代から一年を経て、鳩山政権の挫折、参議院選挙の敗北と続き、代表選で小沢氏を大差で破り再選した菅氏は、実質此処からが再スタートになることになりそうです。

政権交代は間違いでなかったと実感出来る様、菅首相はじめ民主党議員がこの一年の反省を踏まえ、政権交代の初心に帰りもう一度やり直すくらいの気構えで政権運営に臨まなければならないのではないのでしょうか。

ここ数年の短命政権の連続には、日本の政党政



あなたの一票が  
明るい未来を築く  
(かくれみの)

## 東京江戸散歩 その式拾四 芝周辺 ⑤

愛宕山の山上、神社の直ぐ隣にNHK放送博物館がある。

世界初の放送専門の博物館で、ラジオからテレビ、衛星放送、ハイビジョン、目覚しく発展する放送を紹介している。J-OAKのコールサインでラジオの本放送が開始されたのはここ愛宕山である。「勅令が発せられたのである、いまからでも遅くないから」と兵に呼びかけた226事件の「兵に告ぐ」や「神宮球場カラスが二、三羽」と言う有名な早慶戦の実況放送終戦の時の「玉音放送」なども再現される。



↑懐かしいラジオが並んでいる

又、連続ドラマ「君の名は」や「二十の扉」と「んち教室」それに「カムカムエブリボデイ」で始まる平川唯一の英会話など、中年には懐かしい放送も聴くことが出来る。大河ドラマのパネル、紅白歌合戦の写真もズラリと並んでいる。ミニホールがあり昔のビデオを披露している一日中楽しめる場所だ。

大正十四年三月一日ラジオは芝浦の仮放送局から試験放送として開始された。同年七月十二日にはここ愛宕山の東京中央放送局から本放送が開始され、初代総裁には後藤

新平が就任、高さ四十五メートルのアンテナ鉄塔は東京名物となった。

JR浜松町の東側、家が江戸に入った頃はこの辺り一面は海だったが、次第に埋め立てが進んでいった所は、延宝六年(一六七八)に老中大久保忠朝の上屋敷になった。忠朝は祖父の代の領地だった小田原から庭師を呼び寄せ、ここに潮入の回遊式築山泉水庭「楽壽園」を造営した。以後「楽壽園」は江戸名園の一つに数えられるようになった。現在では国の名勝とされている。

園内の見所は「西湖堤」。中国杭州の西湖にあるという堤をイメージしたもので、江戸では多くの大名が庭園に取り入れ、ひとつの流行のようになっただ。実際の西湖堤は誰も見ていないので想像で作ることになる。

り西洋館も建てられ、迎賓館としての役割も果たした。大正十三年(一九二四)一月、昭和天皇御成婚記念として東京市に下賜され、庭園の復旧と整備を施して同年四月に一般に公開され、昭和五十四年に国の名勝に指定された。

大山は庭園内の最も高い築山で頂上からの眺め

石組みでアーチ状の橋は格調高いと言われている。この庭園は、池泉回遊式でありながら枯山水の要素を取り入れている。西湖堤が架かる岸にある枯滝がそうだ。大きな石を組んで屏風のようにそそり立たせ滝をイメージしたものだ。園景の要となる箇所、池の中央にある中島が、中国で仙人が住み不老不死の地と言われる霊山を模した石組みとなっている。



↑不老不死「中島」の石組み

が見事。また左右の築山と構成される後線の変化は、池の対岸から見ると味わい深いものがある。庭園の入り口付近には大きな藤棚がある。五月の初め頃紫色の大きな花房が下がり芳香を放つ。メインは約九千平方メートルの広さを持つ池だ。昔は海水を引き入れた潮入の池だったが、現在は淡水の池になっている。池は中島と浮島を配して海と湖をかたどり、一面には小さな州浜が設けられている。入場料は百五十円、六十五歳以上は七十円、ただみどりの日は無料だ。

◆編集委員会より  
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。

次回からは  
「御茶ノ水・神田」



現在の慶應義塾

**利用者さんの紹介コーナー**

**高木 芳子**

パソコンにて、何か得ることあるらんと、教わり始め、卒寿の頭パソコンが楽しみです。



**鷲山 弘子**

趣味は水泳、旅行。カラオケはシャンソンやポップス。マット運動には満足し、レクレーションも頭の勉強になります。笑は活気があり、楽しみに通っているところです。



**竹村 ツヤ**

盛岡から東京に引っ越してきました。洋裁、和裁は得意で子供の服は小学生まで作っていました。自分の服も作っていましたよ。



**福代 省寿**

歴史物が好きです。小説はよく読みます。司馬遼太郎の「坂の上の雲」がテレビドラマになり

でも楽しみに見ました。



**神山 良一**

大正四年生れ。今年九五歳となります。大泉に高樹町より転入して五十一年以上になります。仕事の間は地元には全く不縁でした。これからよろしくご指導くださるようお願い致します。



**馬淵 誠一**

仕事一筋五十年、商社で働いていました。ゴルフを楽しみ、休日には散歩をしていました。皆様よろしくお願致します。



**嶋田 豊平**

気が向いた時に、ふらっとデパートを見て歩くのが好きでした。気ままに商品を見るのです。公園、動物園、水族館にもよく行きました。



**人々の集う家**

空野 浩

とある町の片隅に静かに佇む家がある。その家には、心の底からの笑いの素敵な人、笑うとその笑顔がなんとも人の心を和ませる人、亡くなった夫への恨みを言いながらも愛していたのだなど思わせる心温かな人、戦争当時の話を語りつつ人生訓をさりげなく語る人、俺はもうすぐ「これだ」と両手を合わせつつも明るく話をする人、冗談を言う人、身体に悪いからと医者に止められているにもかかわらず自分の嗜好を追い求めている人、憎まれ口をたたくことを楽しんでる人、悠々と自分の時間を刻んでいる人、その他にも多くの個性豊かな人、ひと、ひとが集っている。

**私の軽井沢**

泉 貞子

夏を軽井沢で過ごすようになって四十年になる。高齢の私を一人にしない様に、四人の子供達が相談して軽井沢日程表を作ってくれた。毎週月曜日から金曜の夕方迄は娘が御客様のおもてなしもして呉れる。土日は息子達が車で来るのでドライブに連れて行って貰う。家族六人に犬まで来て賑やかに過ごす週末もある。私の一日は毎朝万平ホテル迄歩いて新聞を買いに行く事から始まる。幸福の谷と云う石畳の径を下りて行くと木立を

りして、この家の家庭的温かさを垣間見せてくれる。このことは、この家に集う人々が築き上げてきたものであると同時に、このように人々を暖かく見守りつつ、又、個性ある人々を相手にしながら、或いは、きれながら、笑顔絶えずこの家を切盛りしている若くてスマート(?)な人々の献身的な手助けによるものである。

ここに集う人々の豊富な人生経験に裏打ちされた言葉や表情の素晴らしさが、私の元氣と希望の源になっている。このような人々と家業を、こよなく大切にしていきたい。

透かして川端康成、羽仁もと子、同志社のシーモアハウス等が建っている。毎年八月の始めには軽井沢会館でサマー・コンサートが開かれる。休憩の時間には庭に出てメルシャンのワインで友人との再会を楽しむのである。中旬には高名な方の講演会が開かれる。今年も元国連事務次長明石康氏の「引きこもり国家から脱却の道は」と云うお話で、質問者には丁寧に納得する迄説明して下さい。八月二十四日は東京からの四人の友人と共に南ヶ丘の陶芸教室オーク・ヴィラへ行っ。三十年來の交際で親類へ行く様な気分毎年お会いする友



↑オーク・ヴィラにて 中央が筆者

**あおい 俳壇**

落葉松の 林を行けば 秋の声  
畑仕事 おやっに届く 衣被  
秋風や 寒の河原の 風車  
衣被 籠に盛りたる 野立かな  
泉 貞子  
橋本 慶子

**薬友の会**

10月 17日(金)、「コサージュ」17名参加の大盛況でした。進行が速くなり、この人数でも一人5曲を歌うことができました。

**9月旅行の結果**

カラオケ会  
十七日(金)、「コサージュ」17名参加の大盛況でした。進行が速くなり、この人数でも一人5曲を歌うことができました。

**10月旅行の予定**

カラオケ会  
十五日(金)、「コサージュ」今度も盛況となりますように...

**旅行記**

二十四(日)〜二十五(月)、伊豆高原「かんの宿」。  
友の会史上初の泊温泉旅行です。  
ご案内の通り、完全バリアフリーの宿で介助スタッフも男性2名、女性2名が同行します。奮ってご参加ください。

(事務局長)

笑は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります